校長室だより

2026年11月6日
丹波市立進修小学校長

自ら考え、友だちと関わり合いながら学ぶ「探究的な学び」

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。



本校では、子どもたちがこれからを生き抜くために必要な「自ら問いを立て、学び続ける力」を育むため、「子ども主体の授業づくり」と「探究的な学びの充実」に向けた研究・実践に取り組んでおります。



先月、2年生の生活科「作ってためして（うごくおもちゃ作り）」において校内研究授業を行いました。子どもたちが生き生きと試行錯誤し、友だちと学び合う姿が見られましたので、その様子と本校の目指す教育についてご紹介いたします。

また、今回は、南小学校の先生方も授業見学に来ていただき、一緒に事後研修もしながら、授業の成果と課題について話し合う良い機会をいただきました。教職員もいつもより多くの意見が飛び交い、学びを深めることができました。

2年生「うごくおもちゃ作り」で見られた子どもたちの成長



今回の授業では、身近な材料を使って動くおもちゃを作り、みんなでより楽しく遊ぶための工夫を考えました。**夢中で試行錯誤し、主体的に動く姿** 子どもたちは「もっと遠くまで飛ばしたい」「うまく動かしたい」という思いをもち、何度も諦めずに試したり、自分から必要な画用紙を取りに行ったり、教科書を開いてアイデアを探したりしていました。全員が前向きに学びに向かう姿が見られました。

少人数グループでのあたたかい協力 少人数のグループで活動したことで、普段は控えめな子も安心して自分の意見を伝えることができました。友達のおもちゃで遊んで「ここを直すともっと良くなるよ」とアドバイスを送ったり、「よく気づいたね！」とお互いの工夫を褒め合ったりする素敵な光景がたくさん見られました。

次のステップへ：自分だけでなく「相手を楽しませる」学びへ

今回の活動を通して、子どもたちの学びをさらに深めるための課題も見えてきました。



これまでは「自分が作って遊んで楽しい」という段階でしたが、これからは「1年生や友達など、遊んでくれる相手に楽しんでもらうにはどうすればよいか」**という**相手意識（他者意識）を育んでいきます。

「ルールをわかりやすく説明する看板をつくる」「1年生が投げやすいようにスタートラインを工夫する」など、相手の立場に立った思いやりの工夫を引き出し、単なる工作で終わらない「探究的な学び」へと発展させてまいります。

3. 学校と家庭で育む「子どもに委ねる・自律する力」

本校では、手厚い支援を行いながらも、大人が手を出しすぎず、子ども自身に「自己選択・自己決定」をさせる場面を大切にしています。

自律する力を育てる過程では、「うまくいかない」「失敗した」という経験が欠かせません。本校では「失敗しても大丈夫」「間違えてもいい。またそこから考え直せばいい」という安心感のある環境づくりを意識しています。

今後とも、子どもたちが自ら生き生きと学び、自律していく姿を、ご家庭と学校が一体となって温かく見守り、育んでいければと存じます。引き続きご理解とご支援をよろしくお願いいたします。